



剣志

KEN SHI

2022年86号(令和4年7月)
発行者 九州地区クラブ

会長 加野 資典
幹事長 山田 雅士

ホームページアドレス <http://www.npo-igkc.or.jp> eメール

渉(わた)る蝶あり 睡蓮の池果てず

長谷川かな女

池を渡る蝶がいる。睡蓮が咲くその池は果てがないようだ。



7月30日、久留米ランテック道場において2022年7月例会が開催されました。今回は会場の都合で、当初の予定を繰り下げて実施しました。8月の八・七段の受審者による模擬審査会では、気迫あふれる立ち合いが行われ、八段審査員から、微に入り細に入り指導をいただきました。稽古会では27名の会員が集まり、充実した稽古が実施されました。熱中症対策ために、空気喚気、室温調整、水分補給を取り入れて、暑さを感じさせない環境で稽古を終了することができました。

【模擬審査会】

日時:令和4年7月30日(土)午後2時30分～3時30分

場所:(株)ランテック剣道場

審査員:尾方正照先生、小島良守先生、池田純洋先生、井上誠一先生

八段受審者:溝口勝正、池永祐一郎、平嘉和、田中昭彦

若松清孝、日高久光、大和竹史、加野資典

七段受審者:若本晃一

【八段より講評】

井上先生:審査は同じ年代と立ち合います。私が合格したときに70歳前の先生に指導を受けた言葉があります。それは、審査員の眼を自分に向けさせることが大事です。

具体的には発声です。相手の声をかき消す、またはかぶせて発声することにより審査員の眼を自分に向けさせるだけの気迫のある発声が必要になります。そして、半歩でも自分が相手より上の気持で立ち合うことが大事になります。

池田先生：気迫が重要です。審査は多数の受審者がいますので、他の人と違う点を見てもらう必要があります。それは、気迫です。審査員が「見てみようと思う」ためには、でかい声で、気合と気迫を出して、そこから攻めて、打つ、有効打突と残心を審査員に見てもらうことが重要になります。

小島先生：立ち合いの前の「アップ」が大事です。大相撲名古屋場所で大関正代は元横綱白鵬から、本番前にしっかりアップすることのアドバイスを受けた。正代は自分の体をしっかり温めて本番に臨み勝ち星に繋げました。自分に見合ったアップをおこない、「さあ、やるぞ」の気持まで持つて行くことが大事です。また、本日の受審者の中には一次合格者が多数おられます。一次合格者は範士が認めた八段候補者です。二次審査は一次合格者同士が行います。よって、二次審査では打ち数も少なくなります。無駄打ちが多ければ、合格しません。ではどうすれば、良いか、打ちたい気持ちを押さえ、切っ先の練習、中心の取り合いに時間をかけることが大事です。

尾方先生：9歩の間合いから3歩目の右足大腿部に体重を乗せ、ふらふらせずに蹲踞します。「始め」の合図から、前に出る。ここで、気合を入れる。相手が先に声をだしたなら、ワンテンポ遅れて出す。そこから、相手との練習、相手の竹刀を制して、触刃の間合いに入る。そこで、剣先の攻防が始まる。相手の中心を取りながら入っていく、そこで、下がってはダメ、決死の覚悟で入る。本番前にその気を養う。

- ①強い意志で相手を引き出して打突、相手を動かす
- ②自ら攻めて相手を崩して打つ
- ③自ら攻めて相手の気が動くところを打つ
- ④自ら攻めて相手の構えが崩れたところを捨て身で打つ。

そして、残心。一番大事な気迫は自分の竹刀に移ってくる。審査員はどこで技を出すか見ている。一方で、難しい人と対するときは、品格と風格の違い見せる。捌く、竹刀で押さえる。一緒には打ち合わない。こちらが打突するときは突き抜け、打ちぬける。そして、残心を示す。

【稽古会】

日時:令和4年7月30日(土)午後3時30分~4時40分

場所:(株)ランテック剣道場

久留米市宮ノ陣町若松1-3 TEL:0942-36-4125

【出席者:27名】(順不同、敬称略)

尾方正照先生 小島良守先生 池田純洋先生 井上誠一先生 山田雅士先生

(当地区八段の先生5名)

池永祐一郎、宇佐輝彦、大隈光夫、大塚勝也、小川金吾、加野資典、佐藤博喜、末安真知夫、平嘉和、武田耕次、田中昭彦、中道政生、永岡義規、西田耕陽、西見秀俊、日高久光、溝口勝正、森迫多美子、大和竹史、若松清孝、若本晃一、渡邊寛二、
以上27名

【加野会長挨拶】

本日は暑い中、お集まりいただきありがとうございます。先程、模擬審査を実施しました。拝見した中で、良い人が見られます。是非、本番で実力を発揮されて合格されることを期待しています。

【指導稽古】

熱中症対策のため、指導稽古における稽古時間は3分×5回、3分休憩、3分×5回、10分休憩（水分補給）、10分の自由稽古

元立ちの先生は、八段5名および平先生、池永先生の7名から指導をいただきました。

【講話】

小島先生：福岡市出身の三角卯三郎先生の言葉を2点お話します。第一は「剣道が強くなるためにはたえざる稽古と技の創意工夫しかありません。」百錬自得との言葉があります。錬ること百にして自ずから得る。同じことを百回（それぐらい多く）反復して行えば、自然に身につくという教え。第二に剣道で一番大切なものは何かの問いに、「稽古です。」では、二番目に大切なものは何か。「やはり稽古です。」では、三番目に大切なものは何か。「稽古に尽きます。」「頑張らないとすぐ元に戻りますよ。」と話がありました。そこで、中身の問題です。審査員の尾方範士の言葉を直接お聞きすることは果報者です。「記憶は一瞬、記録は一生」と言われます。先生方の言葉を大事にして自分のものにして成長されることを期待しています。吉報をお待ちしています。

尾方先生：私は八段の一次審査は2回しか振りませんでした。教士八段は3本勝負です。無駄打ち、無理打ち、二段打ちはダメです。それくらい自分が集中することです。すると兆しが見えます。しかし、集中していても自分の心の中に、魔物が出てくることがあります。「打とう、打たれまい」そこで、自分の後はないと覚悟することです。すると相手が見えてきます。一次審査合格の後に、二次審査に向かう時は心を落ち着ける。二次ではそこをクリアする。しっかり頑張ってください。

令和4年8月九州地区クラブ例会のご案内

日時:令和4年8月20日(土曜日)15時~16時30分 場所:(株)ランテック剣道場

相互稽古会 15時~15時30分(予定) 指導講師:井手勝彦先生

指導稽古 15時40分から16時30分

※3分間刻みで10回の指導稽古を約30分実施します。(5回目、6回目の間で休憩)

その後、10分間の水分補給。休憩後は10分~20分間の自由稽古(予定)

山田: m.yamada.kokura.k8@gmail.com

溝口: yumehome@d7.dion.ne.jp

《連絡事項》

1. コロナ感染者が増加しています。行政から行動制限の方針が発表された場合は、8月例会は中止します。
2. 稽古参加の時はマスク着用、検温(各自)でお願いします。体調不良の方は、稽古会のご参加はご遠慮願います。(体温計、消毒液は準備しています。)
3. 稽古会には遠方より参加して頂いておりますので、交通事故等にはご注意ください。